

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は 110 円台を中心に底堅い展開か

[6月21日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		6月14日～6月18日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	109.65	110.82(17)	109.61(14)	110.05	+0.39
ユーロ・ドル	1.2115	1.2147(15)	1.1892(17)	1.1901	-0.0208

=====

国内株・金利 / 米国株・金利				
	終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	28,964.08	+15.35	日本10年債利回り	0.059 +0.024
ダウ平均株価	33,823.45	-656.15	米10年債利回り	1.504 +0.052

=====

<来週の主要経済統計等>

- 21日 英6月ライトムーブ住宅価格
豪5月小売売上高
- 22日 米5月中古住宅販売件数
ユーロ圏消費者信頼感
パウエルFRB議長 議会証言
- 23日 日本4月景気動向指数改定値
独6月製造業PMI速報値、独6月非製造業PMI速報値
ユーロ圏6月製造業PMI速報値、ユーロ圏6月非製造業PMI速報値
英6月製造業PMI速報値、英6月非製造業PMI速報値
米第1四半期経常収支
カナダ4月小売売上高
米6月製造業PMI速報値、米6月サービス業PMI速報値
米5月新築住宅販売件数
- 24日 独6月ifo景況感指数
英中銀(BOE)政策金利
米5月耐久財受注速報値
米第1四半期国内総生産(GDP)確報値
米新規失業保険申請件数
欧州連合(EU)首脳会議(24～25日)
- 25日 NZ5月貿易収支
米5月個人所得・個人支出
米5月個人消費支出(PCE)デフレーター
米6月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】米長期金利は1.5%を割り込んでおり、活発なドル買いの動きにはつながりにくい。ただ、米長期金利は1.40%を下回って一段と低下していくような弱い地合いでもない。こうした中、ドル円は最近のレンジ内での推移が継続して109～110円台を中心とするもみ合いが続くとした。

【FOMCは市場の想定以上にタカ派的】

15～16日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では政策金利は据え置きとなった。注目されたFOMC参加者の政策金利見通しを示すドットチャートでは、2023年の利上げを見込む参加者の数が前回の7人から13人と2倍近くに増えた。政策金利の中央値は0.625%となり、従来の0.125%から大きく切り上がった。2023年末までに2回の利上げを見込んでいることになる。これまで2024年以降としていた利上げの時期を前倒した格好となった。また、2022年の利上げを見込んだ参

加者も前回の4名から7名に増加した。

これらの結果は市場の想定よりもタカ派的と受け止められた。米10年債利回りは1.49%前後から1.59%近辺まで上昇した。ドル買いの動きとなって、ドル円は110.70台まで上昇を見せ、ユーロドルは1.2000ドルの節目を割り込んだ。

パウエル議長は記者会見で「量的緩和縮小の議論をいつ始めるのが適切かを検討する議論をした」との発言があった。「経済は目標からほど遠いものの、明確な改善が見られる」「FOMCメンバーは今後の会合でも経済状況の改善が継続すると見込んでいる」との見解を示して、経済指標を注視しながら議論を始める意向を示した。

FOMCメンバーの物価見通しでは、2021年は3.0%となり、前回(3月)の2.2%から上方修正された。2022年は2.1%となり、前回の2.0%から小幅な修正にとどまった。足元の物価見通しは大きく上方修正したものの、2022年の見通しは今年に比べて抑え目の見通しとなり、「インフレ圧力は一時的」との見解を維持した格好となる。

この日の米10年債利回りは大きく上昇したものの、1.60%手前で伸び悩んだ。ただ、翌17日には1.51%前後に低下している。量的緩和の縮小(テーパリング)や利上げに向けて、今までよりも一歩踏み込んだ今回のFOMCを受けて、米長期金利は緩やかに上昇していく展開とみられる。今後は経済指標の動向に左右されやすい流れが見込まれるものの、ドル円は110円台を中心に底堅い展開が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、109.50~111.25円。

18日の日銀金融政策決定会合では、金融政策に変更はなかった。「新型コロナ対応資金繰り支援特別プログラム」の期限を2021年9月末から2022年3月末に延長することを決定した。市場予想の範囲内だったことから、影響は限定的だった。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、22日に米5月中古住宅販売件数、23日に日本4月景気動向指数改定値、米第1四半期経常収支、米6月製造業PMI速報値、米6月サービス業PMI速報値、米5月新築住宅販売件数、24日に米5月耐久財受注速報値、米第1四半期国内総生産(GDP)確報値、米新規失業保険申請件数、25日に米5月個人所得・個人支出、米5月個人消費支出(PCI)デフレ率、米6月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロドルは下値を探る動きか】

米長期金利の上昇とそれに伴うドル買いの動きを受けて、ユーロドルは大きく値を崩している。16日は1.2130台から1.2000ドル割れまで急落した。17日はさらに下値を探る展開を見せ、一時1.1900ドルを割り込んだ。米連邦準備制度理事会(FRB)はこれまで「テーパリングの議論は時期尚早」としてきたものの、前日のFOMCで緩和縮小や利上げが当初の想定よりも早まるとの見方からドルは上昇基調に転じている。

ユーロドルは21日移動平均線付近でもみ合いが続いた後、同線から大きく下された。重要な節目と見られた1.2000ドル近辺で下げ止まりを見せなかったことで、一段と下値を探る展開が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1700~1.2000ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、21日に英6月ライトムーブ住宅価格、豪5月小売売上高、22日にユーロ圏消費者信頼感、23日に独6月製造業PMI速報値、独6月非製造業PMI速報値、ユーロ圏6月製造業PMI速報値、ユーロ圏6月非製造業PMI速報値、英6月製造業PMI速報値、英6月非製造業PMI速報値、カナダ4月小売売上高、24日に独6月IFO景況感指数、英中銀(BOE)政策金利、25日にNZ5月貿易収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。